

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2014年版、名古屋市建築 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.22)
 物環境配慮制度運用マニュアル2014

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社エステム 新分析棟	階数	地上4F
建設地	名古屋市南区弥次工町三丁目22-1	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域、絶対高31m	平均居住人員	79 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2016年3月22日
敷地面積	937 m ²	作成者	
建築面積	554 m ²	確認日	2016年3月22日
延床面積	1,896 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE3.0 ★★★★★★

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

☆:100%超 ☆☆:100% ☆☆☆:80% ☆☆☆☆:60% ☆☆☆☆☆:30%

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.7

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.6

音環境	3.0
温熱環境	3.8
光・視環境	3.2
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.8

機能性	4.4
耐用性	3.5
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.8

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性	4.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 4.0

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.6

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	3.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.8

水資源	3.4
非再生材料の	3.8
汚染物質	4.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.6

地球温暖化	4.6
地域環境	3.1
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	環境配慮型の次世代分析棟として、外断熱工法の採用による外皮熱負荷の抑制・昼光や地熱の利用など自然エネルギーを活用し、ZEBの実現を目指した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	外断熱工法を採用し、室内の温熱環境に配慮した。また、空調を床吹出し方式を採用することにより局所気流を低減する計画としたほか、LED照明・自動調光による明るく快適な光環境を作りだした
Q2 サービス性能	執務スペースはゆとりのある広さを持たせ、天井高を高くすることで開放的な印象を持たせた。また、各階バルコニーに緑化スペースを設け、日常的に緑と触れ合える空間を創出した
Q3 室外環境(敷地内)	自然に親しめるようなビオトープを計画し、また、道路に面して植栽を設けることで景観に配慮し、
LR1 エネルギー	外断熱工法・トリプルガラスにより、熱負荷を低減するとともに、LED照明などによる高効率設備の採用による省エネルギー化に配慮した。また、太陽光発電パネルを導入し自然エネルギーの利用を図った。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材を積極的に使用し省資源化に努めた。また、有害物質を含有する材料を使用しない計画とした。
LR3 敷地外環境	建物利用者のための駐輪場・駐車場を適切に確保し、交通負荷の抑制を図った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される